

### 第3章 産業廃棄物発生量等の比較

#### 第1節 前回調査結果との比較

##### 1 発生・排出状況の比較

本調査はアンケート調査等によって得られた標本の産業廃棄物量と集計活動量指標から排出原単位を算出し、その原単位に、業種別の調査対象全体における調査当該年度の活動量指標を掛け合わせて算出した推計量である。

平成25年度の発生量、排出量を前回調査（平成20年度実績）と比較すると、発生量（-805千t）、排出量（-992千t）で、ともに減少している。

発生量の種類別にみると、特に汚泥（-1,046千t）、の減少が著しくなっている。

（図3-1-1）

なお、グラフは発生量を比較したものである。

(千t/年)	H20		H25		発生量増減		排出量増減	
	発生量	排出量	発生量	排出量	H20	H25	H20	H25
合計	7,590	7,014	6,785	6,022	3,047	-805	2,694	-992
燃え殻	32	32	42	41	6	10	6	9
汚泥	3,765	3,753	2,712	2,707	1,636	-1,053	1,628	-1,046
廃油	176	120	117	68	47	-59	8	-52
廃酸	112	83	70	69	75	-42	55	-14
廃アルカリ	231	225	563	563	129	332	126	338
廃プラスチック	161	133	141	123	-30	-20	-41	-10
紙くず	9	6	238	18	-1	229	-4	12
木くず	184	183	158	154	116	-26	119	-29
繊維くず	1	1	4	4	-	3	-	3
動・植物性残さ	32	27	48	35	-71	16	-73	8
ゴムくず	1	1	0	0	-2	-1	-2	-1
金属くず	473	41	463	153	241	-10	-35	112
ガラスくず等	468	464	250	244	334	-218	331	-220
鋳さい	117	117	86	86	29	-31	32	-31
がれき類	1,698	1,698	1,699	1,572	458	1	466	1
ばいじん	92	92	112	107	48	20	48	20
その他廃棄物	38	37	82	79	32	44	31	42

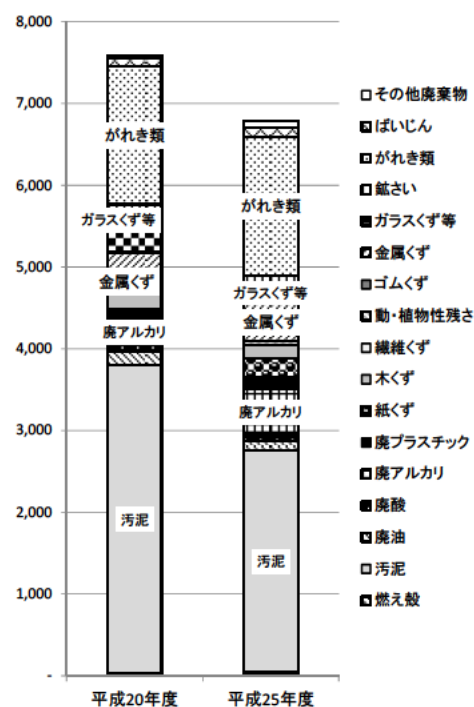


図3-1-1 種類別の発生量・排出量の比較

業種別の発生量を比較すると、製造業（-916千t）や電気・水道業（-152千t）で大きく減少している。  
 (図3-1-2)

(千t/年)	H20		H25		発生量増減		排出量増減	
	発生量	排出量	発生量	排出量	H20	H25	H20	H25
合計	7,590	7,014	6,785	6,022	3,047	-805	2,694	-992
建設業	2,049	2,034	2,072	1,938	609	23	603	-96
製造業	4,730	4,171	3,814	3,209	2,237	-916	1,888	-962
電気・水道業	760	760	608	607	195	-152	195	-153
運輸業	5	4	42	30	1	37	1	26
卸・小売業	36	34	38	26	3	2	3	-8
サービス業	5	5	188	188	2	183	3	183
医療業	6	6	23	23	1	17	1	17

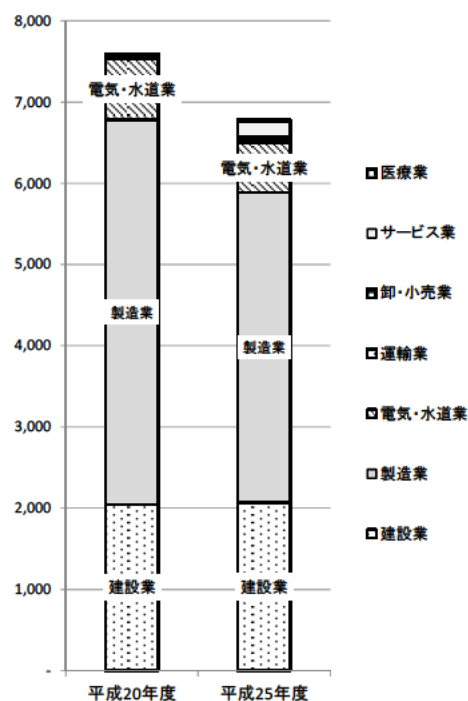


図 3-1-2 業種別の発生量・排出量の比較

## 2 処理状況の比較

発生量に対する各処理量の割合を前回調査と比較すると表3-1-3のとおりである。

表 3-1-3 処理状況の比較

(千t/年)	発生量		排出量		減量化量		資源化量		最終処分量	
平成20年度	7,590	(100.0%)	7,014	(92.4%)	3,958	(52.1%)	3,250	(42.8%)	382	(5.0%)
平成25年度	6,785	(100.0%)	6,022	(88.8%)	3,306	(48.7%)	3,175	(46.8%)	304	(5.0%)
H20増減(率)	3,047	(67.1%)	2,694	(62.4%)	1,521	(62.4%)	1,327	(69.0%)	214	(127.4%)
H25増減(率)	-805	(-10.6%)	-992	(-14.1%)	-652	(-16.5%)	-75	(-2.3%)	-78	(-20.4%)

## 第2節 排出状況の将来見込み

排出量の将来予測は、次の考え方で行った。

産業廃棄物の排出原単位が、将来にわたり一定であると仮定して、各種活動量指標を将来推計し、推計した活動指標に平成25年度の原単位を乗じて排出量を予測した。

(千t/年)	H25	H30	H35
建設業	1,938	1,999	2,109
製造業	3,209	3,286	3,539
電気・水道業	607	593	571
その他	267	261	256
排出量計	6,022	6,140	6,475

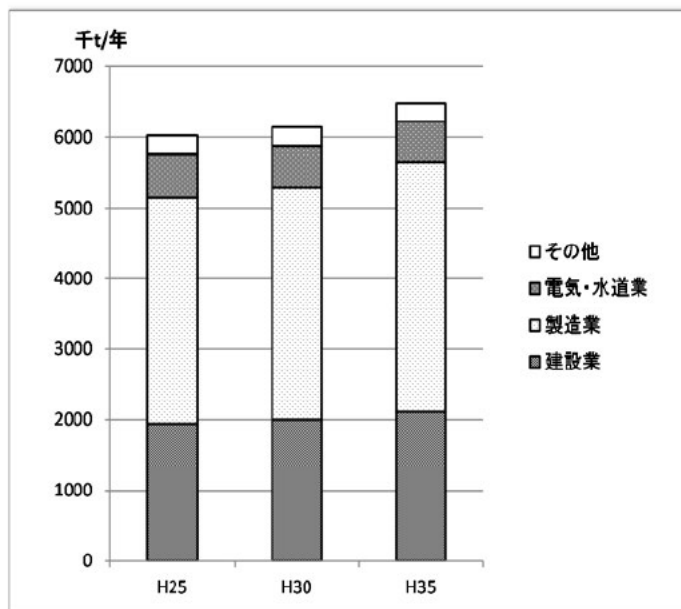


図 3-2-1 業種別排出量の将来見込み

(千t/年)	H25	H30	H35
汚泥	2,707	2,739	2,869
がれき類	1,572	1,621	1,710
廃プラスチック類	123	125	132
ガラスくず等	244	250	268
廃油	68	69	74
動植物残さ	35	35	38
廃アルカリ	563	576	621
鉱さい	86	88	95
その他	624	636	669
排出量計	6,022	6,140	6,475

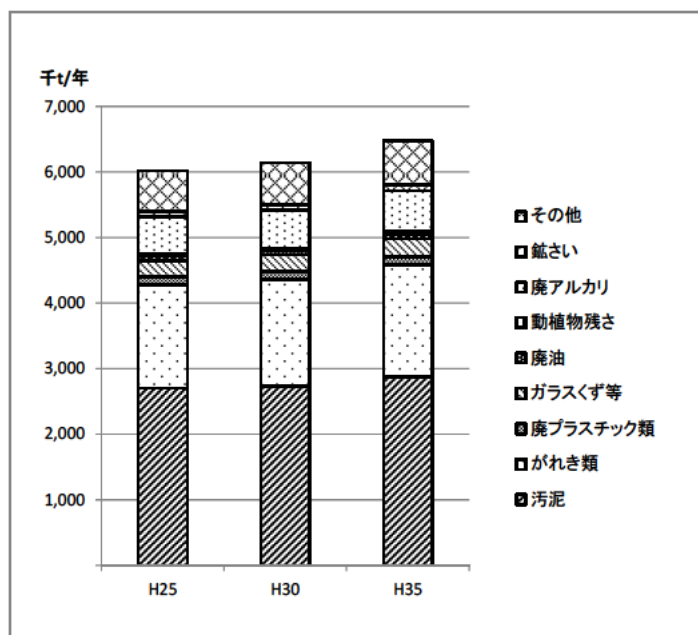


図 3-2-2 種類別排出量の将来見込み

発生量に対する各処理量見込みの割合を見ると表 3-2-3 のとおりである。

処理量の将来予測は、現状の業種別、種類別の排出量に対する処理方法等の割合が将来も一定であると仮定し算出した。

排出量に対する資源化量の割合は、増加する見込みとなっており、最終処分量の割合はほぼ横ばいであることが見込みとなっている。

表 3-2-3 処理状況の将来見込み

	発生量		排出量		資源化量		最終処分量	
	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合
平成25年度	6,785	(100.0%)	6,022	(88.8%)	3,175	(46.8%)	304	(4.5%)
平成30年度	6,921	(100.0%)	6,140	(88.7%)	3,256	(47.0%)	311	(4.5%)
平成35年度	7,311	(100.0%)	6,475	(88.6%)	3,448	(47.2%)	333	(4.5%)